

# 企画展 一空からの測量 60年の歴史一

測量用航空機

# くにかぜが見た日本

空中写真撮影や航空磁気測量など  
航空測量の紹介や機器の展示



くにかぜ(初代)



くにかぜII



くにかぜIII

入場  
無料

「歴代のくにかぜに搭載した航空カメラや

戦前の航空カメラもあるよ！」

アナログ航空カメラ

ZEISS 社製 RMK P10(戦前に使用), RMK AR  
WILD 社製 RC9, RC10, RC30



航空磁気測量用計測機器  
プロトン磁力計

2020年10.6(火) ▶ 12.20(日)

〈開館時間〉9時30分から16時

〈休館日〉毎週月曜日(祝日の時は順次翌日)  
及び10.24(土)と10.25(日)

## 地図と測量の科学館

茨城県つくば市北郷1番 国土地理院構内  
TEL 029-864-1872 URL <https://www.gsi.go.jp/MUSEUM/>



交通案内

- ・TXつくば駅から関東鉄道バス5番乗り場(建築研究所・下妻駅行)乗車、約10分、「国土地理院」下車
- ・サイエンスツアーバス……研究機関等を巡る1日乗降自由の周遊バス(土日・祝日運行)
- ・TX 研究学園駅からつくバス(吉沼シャトル)乗車約15分「国土地理院」下車
- ・無料駐車場あり(大型可)
- ・<https://www.gsi.go.jp/GSI/CONTACT-g-kotu.html>

# 開催にあたって

## 企画展「空からの測量 60年の歴史 —くにかぜが見た日本—」

### ■あいさつ

国土地理院は、昭和35年に測量用航空機「くにかぜ」（ビーチクラフト・クィーンエア65）を導入し、昭和36年から国土基本図整備事業のための空中写真撮影、翌37年からは航空磁気測量を開始しました。

この「くにかぜ」は、日本の国土上空を昭和58年までの24年間で地球5周半に相当する距離(23万km)を飛び、経済成長する国土の姿を記録してきました。

昭和58年からは2号機「くにかぜⅡ」（ビーチクラフト・キングエアC-90）にその業務は引き継がれ、平成21年まで継続して実施（航空磁気測量は平成14年に終了）され、27年間で地球約8周半に相当する距離（34万km）を飛行しました。

現在は、平成22年から3号機「くにかぜⅢ」（セスナ208B）がその役割を担い、災害時における緊急撮影、災害現況調査（情報収集）も行っています。

役割を終えた初号機の機体は地図と測量の科学館の地球ひろばに、2号機は解体され機内の航空カメラ部分を2階の常設展示室に展示しています。

本企画展では、3代に渡る測量用航空機「くにかぜ」が果たしてきた空中写真撮影や航空磁気測量、災害現況調査（情報収集）の役割等について紹介するほか、空中写真で見る地形の移り変わり、測量用航空カメラ、空中写真撮影に関する器材、資料等を紹介しています。これまでの60年を振り返り国土地理院の測量事業の推進に大きく貢献した「くにかぜ」を通して、地図・測量への理解と親しみを深めていただければ幸いです。

### ■主な展示物

- ・歴代使用した航空カメラの実物展示  
「ZEISS社製（RMK P10, RMK AR）、WILD社製（RC 9, RC10, RC30）」
- ・空中写真撮影の歴史
- ・航空レーザ測量の紹介
- ・航空磁気測量の紹介と航空磁気測量用計測機器の実物展示  
「プロトン磁力計」
- ・航空重力測量